



渚滑っ子

教育目標：人間性豊かな児童の育成

～自ら気づき、自ら考え、自ら行動する子～

令和5年9月26日発行

文責：校長 佐藤 進也

望ましい人間関係の形成＝自分軸で考える

前号で、2学期の教育活動の重点は「望ましい人間関係の形成」であることをお伝えしました。

・望ましい人間関係の形成…「望ましい」＝もめ事がない、仲が良い状態ではありません。時には衝突することもあります。単に我慢をして仲良くするではなく、自分の気持ちを言葉にすることの大切さを改めて教えていき、お互いを分かり合えるところから大事にしていきます。

と書きました。もう少し補足すると、

① 望ましい人間関係の形成は「みんな仲良く」の精神ではない。

② 望ましい人間関係の形成は単にコミュニケーション能力の育成・向上を指しているものではない。であることを保護者・地域のみならずと改めて共有させてください。

このように伝えると、「みんな仲良くしなくてよいのか」とか「コミュニケーション能力の育成でないとしたら何を育てているのか」という反応が返ってきそうです。もちろん、このような姿を“すべて”否定し、全く望んでいないというわけではありませんが、①だと、そのことに重きを置くあまり、自分を押し殺すこと、自分を出さないことがよいという価値観になりかねません。また、②だと、表面を取り繕うための方法論に終始してしまうことから、別の視点を子どもたちに学ばせたいと考えます。

では、教育活動を通してどのような視点・考え方を子どもたちに学ばせたいかという、

① 心で思うことは自ら否定せず大事にしてほしい。心と行動することを切り離して考える。

② どのように自分を出すかを中心に考える。そのことを通して、自分の中でマイナスの感情をため込まない。

例えば、①であれば、人との関わりの場面で、“嫌だ”とか“腹が立つ”という感情が芽生えることがありますが、その感情自体を否定しないで（「みんな仲良く」の精神“だけ”を教えると、そのような感情をもつこともよくないということになりかねない）そのことをどう出すか、特に言葉のもつ力や重さを知り、相手に伝えていったり教師に聞いてもらったりするということです。感情をストレートに言葉にしてよいときなのかどうなのか、また言葉を届ける対象は誰が適切なのかも考えられるようになってほしいです。

②については、不満やマイナスの感情をもつこと自体は否定しないものの、マイナスの感情を抱えるのは自分自身であり、抱え続けることは自分を傷つけることにつながります。だからこそ、自分とは違う存在を受け止めるということです。受け止めるとは“そういうこともあるんだ”と思えるようになるくらいでよいです。これらのことは様々な教育活動（体験）で学びます。難しいのは、全ての教育活動が全ての子どもに合ったものにはなっていない（苦手、特性等の理由から）かもしれないということです。しかし、教育活動は今年度の重点教育目標である「望ましい人間関係の形成」をはじめ、「自己評価能力」（自分はどのくらい頑張ったのか、それはなぜなのかを考える）、「自己調整能力」（どのような目標を設定するのか、自分の気持ちをコントロールできる）力を高めるための場です。教育活動を通して25人すべての子どもが成長していることは間違いありません。地域・保護者のみなさまには子どもたちの成長を様々な視点・角度から見取っていただければ幸いです。そのために、学校としても子どもたちの姿を発信し続けます。

「関わり合える子」を意識した教育活動

【渚滑小学校の学力の状況について】

令和5年1月に全校児童対象に実施した「標準学力検査」（今の2年生以上）及び4月に6年生対象に実施した「全国学力・学習状況調査」等から、本校の学力の状況についてお知らせいたします（なお、全国学力・学習状況調査につきましては、実施人数が少ないため、全国平均との比較は行いません）。

【全校的な成果と課題 国語について】

- ◎ 全体的に向上している。特に「書くこと」について成果が見られる。
- 言語事項の理解（例えば、敬語の使い方等）。
- 「読むこと」について、内容を理解することに時間がかかりすぎ、問題までたどりつけない傾向がみられる。

【全校的な成果と課題 算数について】

- ◎ 全体的に向上している（特に、思考・判断・表現力が身に付いてきている）。
- 算数で用いる概念・定義の確実な定着。

改善策について、保護者のみなさまに「学力向上策」を配布しております。学校HPでも確認できますので、改めて一読いただきますようお願いいたします。

【SOSが出せる環境を整える（自殺予防教育の推進）】

紋別市では、自殺予防週間（9/10～9/16）に合わせて各学校で「SOSの出し方に関する教育」を含めた自殺予防教育に取り組んでいます。困っているときや悩んでいるとき「誰に、どのように助けを求めればよいか」の具体的かつ実践的な方法を学ぶことが「SOSの出し方に関する教育」の目的です。子どもが「困ったら相談してもいいんだ！」「相談したら聞いてもらえる！」という安心感を得られること、相談先が学校だけでなくてもよい（いろんな場がある）ことを大事にしていきたいです。



子どもの困り感や悩みに寄りそう…とても難しいものがあります。ただ一つ言えるのは、まずは否定せず、聞き手の考えを押し付けず、受け止める（傾聴）ことが大事だということです。

どのような対応がよいかの答えはありませんが、あまり適切とは言えない対応（言葉）はあります。

- ・「大丈夫、がんばれば元気になる」（安易な励まし）
- ・「死ぬなんてばかなことを考えるな」（叱責）
- ・「そのくらいのことで…（悩まない）」

捉えが難しいからこそ、安易にわかったと思わず、むしろ「（子どもの考えていること、気持ち）がわからない」と思っている方がよいときもあります。子どもにとっては、自分の考えが否定されないこと、安心できることだと認識できることが大事です。

学校では、他にも「気持ちの健康観察」（アンケート）を含め、日常的に子どもたちの様子をきめ細やかに見取っていきますので、お気づきの点がありましたらお知らせいただけますと幸いです。

どうかご理解いただきますようお願いいたします。

10月の主な行事予定

- 1日（日）開校記念日（123年）
- 3日（火）子どもサミット（4～6年）
- 13日（金）定例職員会議
- 16日（月）マラソン記録会
- 25日（水）収穫祭前日準備
- 26日（木）収穫祭

※ノーチャイムデーは下校時刻が変わりますので、学級通信で確認ください。

学校だよりだけでは伝えきれない日常の教育活動の様子を学校HPで紹介していますので、ぜひご覧ください。

